

「JR杵築駅周辺整備基本構想（案）」に係るパブリックコメント募集結果について

「JR杵築駅周辺整備基本構想」の策定にあたり、パブリックコメントを実施しましたので、いただいた意見に対し、次のとおり本市の考え方を公表します。
今回、ご意見をお寄せいただき誠にありがとうございました。

1. 募集期間
- 令和8年7月1日（水）から令和8年7月31日（金）まで（31日間）
2. 募集結果
- 36件（11人）
3. 意見と回答

※いただいたご意見の中で、個人が特定される可能性のある表現等は、一部削除（省略）して掲載しております。

No.	意見の概要	市の考え方
1	p.12欲しい施設・設備における「観光系」の意見の中にコインロッカーとある。電車移動をしつつ現地で自転車を借りて観光した時にはとても助かった思い出がある。（余談：確か平泉を観光した時だが、アプリ登録もなく、予約なし、かつ人を介さずに自転車が借りられたことに感動した。）	本基本構想では、駅前交流・交通結節ゾーンに観光案内、待合・休憩、二次交通機能としてシェアサイクル等の導入候補を示しています。コインロッカー及び利用しやすい自転車貸出サービスについては、観光客の利便性、設置・運営主体、防犯・安全性、既存サービスとの連携を踏まえ、基本計画の検討において参考とします。
2	p.13の市民ワークショップの写真をを見ると、高齢男性の比率が高いように見受けられる。拾えていない意見があるのでは？若い世代（20～30代）に本プロジェクトの情報が届いていないことが懸念として上げられる。世代の比率は意識して欲しい。	幅広い世代の意見を把握する必要があるとの意見として受け止めます。今後の基本計画の検討や事業化の各段階においては、周知媒体、時間帯、参加方法等を工夫し、若年層を含む多様な市民が参加しやすい意見聴取・対話の機会の確保に努めます。
3	p.17交通結節機能に関する課題について。昨年、電車で杵築駅に到着したが最終バスが終わっていた。タクシー会社に電話するも繋がらず大変苦労したことがある。事前にエクスキューズをしておくか、タクシー会社への電話は必ず繋がるようにしておかないと、悪い顧客体験となってしまふ。	本基本構想では、鉄道・バス・タクシー等の乗継ぎ利便性の向上、運行情報を一元的に提供する総合案内機能、デジタルサイネージ等の整備を方針として示しています。タクシーの利用環境や事前案内については、交通事業者と連携し、利用者に分かりやすい情報提供と円滑な二次交通の確保に向けて、基本計画等で検討します。
4	p.18景観形成に関する課題について。「寂れている」のは近隣住宅から受ける印象の影響が強い。市民の住宅に対してどの程度の改善ができるのかが一つのポイントになると思う。高知県の梶原町（ゆすはら）を訪れたことがあるが、山間部の小さな町でありながら国道440沿いの建物からは寂れた感じを受けなかったのは何らかの制度なり仕組みを作ったのだと推測している。（一部、トタンやシャッターのサビが気になる建物もあったが、総じてかなり綺麗な状態が維持されていた。）一方、杵築市の城下町を見ると寂れた印象を受ける建物や雰囲気の違いの建物があり、部分部分で景観維持がうまくいっていないように感じる。どの程度のカバナンスを持たせられるのかが気になるところ。	本基本構想では、駅前広場や周辺空間、駅舎・案内機能等を含めた一体的な景観形成を方針としています。民有建築物を含む景観の維持・改善については、景観計画等との整合、所有者の理解と協力、支援・誘導手法及び実現性を踏まえ、関係課と連携して検討します。
5	p.29第6章の1において、「特に、高齢者をはじめとする地域住民が生きがいを持って主体的に関われる場づくりを重視し」とあるが、なぜ高齢者に絞る必要があるのかわからない。むしろ、現役世代（20～40代をイメージ）による活力ある街づくりをしなければならぬと個人的に感じている。この文言では、若者を除外するようなネガティブなメッセージとして伝わらと思う。（おそらく高齢者の孤立を防ぐことでメリットがあるのだとは思いますが、そのようには伝わらない。）	多世代が主体的に関われる場づくりの重要性に関する意見として受け止めます。「高齢者をはじめとする地域住民」との記載について、若年層や現役世代を含む全ての世代が参加・活躍できる趣旨が明確に伝わるよう、表現を見直します。
6	全体を通してコンセプトは良いと思う一方、まだ「わくわく」や「にぎわい」、「モビリティハブ」「コミュニティハブ」など抽象的な表現も多く具体的なイメージが持てない。どう盛り上げるのかや、どこに誘導するのかは、利権に関わるので後々揉める可能性もある。可能であれば決定事項の羅列だけではなく却下された理由も可視化して欲しい。	基本構想は、JR杵築駅周辺の将来像と整備の基本的な方向性を示すものであり、施設規模、機能配置、整備手法等は今後の基本計画で具体化します。今後策定予定の基本計画においては、用語や整備イメージなどを可能な限り分かりやすく示すとともに、ワークショップでの個別意見も表記します。
7	（マイナーな観光資源の取り扱いも気になる。九州最大級の古墳、石文化、カブトガニ、世界農業遺産、戦争遺産[重光葵・防空壕・日出の回天含む]、刀剣、神社仏閣[九州三代稲荷の白川稲荷などフォーカスが当たってないものもある]、民話[河童or鬼を退治した武士、身投げ石と轟地藏は2つとも悲しい姫の話]、国東鉄道跡などなど、ニッチではあるが一部の人に深く刺さる資源が結構たくさんある。地元住民や移住者にとっても知るきっかけになるので、活用しなければ勿体無いと思う。）	本基本構想では、駅を広域周遊観光の玄関口として位置付け、市内及び周辺観光地への送客・回遊を促す方針を示しています。ご提案の地域資源については、杵築市観光戦略との整合を図りつつ、関係課・関係団体と連携し、観光案内、情報発信、周遊促進等の検討にあたって参考とします。
8	1. 病院と市役所の集約（保健医療福祉の一体化） ・フンストップサービスの実現：医療・介護・福祉・行政手続きが1つの拠点で完結するため、高齢者や移動手段に限りのある市民にとって非常に利便性が高くなる。 ・行政・医療コストの削減：庁舎や医療施設の維持管理費・更新費用を統合することで、将来的な財政負担を大きく抑えることが期待できる。 ・緊急時・災害時の連携強化：災害対応の本部機能（行政）と救急・医療機能（病院）が同じ場所にあることで、迅速な危機管理体制の構築。	本基本構想では、駅周辺への行政機能（出先機能・窓口機能等）、医療・福祉機能等の導入可能性を候補として示しています。一方、市役所及び病院の集約は、全市的な公共施設再編・医療提供体制に関わる事項であり、本構想の中で単独に方向性を決定するものではなく、関連する計画等との整合を図りながら検討していく必要があります。本意見は関係課に共有し、関連する個別計画や施設のあり方の検討にあたって参考とします。
9	① AIを活用した「ラストワンマイル」モビリティハブの導入 ・概要：杵築駅および集約拠点をターミナルとし、AIデマンドバス（予約型乗合タクシー）や自動運転モビリティの発着拠点を整備。 ・狙い：高齢者等の移動の足の確保。AIが乗降リクエストや道路状況に応じて最適な運行ルートを自動計算するため、公共交通の維持コストを抑えつつ市民の移動利便性を向上させる。	本基本構想では、駅を多様な交通手段が結節するモビリティハブとして位置付け、AI、自動運転バス等の次世代交通サービスへの対応も見据えた環境づくりを方針としています。AIデマンド交通等については、地域公共交通計画との整合、利用需要、運行体制、費用対効果及び既存交通との役割分担を踏まえ、関係課・交通事業者と連携して基本計画等で検討します。
10	② AI×ヘルスケア（予防医療・生活支援）の拠点化 ・概要：病院と行政（福祉）の一体化を活かし、市民の健康データを統合・活用する仕組みを作る。 ・狙い：AIが市民の健康状態や受診履歴を分析し、個別化された予防医療アドバイスや介護予防プログラムを提供。医療費の削減と健康寿命の延伸を目指す。	本基本構想では、居住ゾーンにおける診療所等の医療機能、福祉機能の導入可能性を示しています。AIを活用した健康データの統合・活用による予防医療・介護予防の提供については、関連計画や既存の保健事業との整合を踏まえ、基本計画の導入機能の検討において参考とします。
11	③ 「防災×エネルギー」レジリエンス拠点 ・概要：集約拠点到太陽光発電、蓄電池、EV充電ステーションなどを備え、スマートコミュニティ化（エネルギーの最適制御）を進める。 ・狙い：災害時に大規模な避難所・救護所として機能し、AIが電力需要や避難状況をリアルタイムで最適管理できるようにする。	本基本構想では、自然災害リスクに配慮した災害に強い市街地形成を方針とし、居住ゾーンにおける防災広場、防災倉庫、備蓄機能等を候補として示しています。太陽光発電、蓄電池、EV充電設備等については、災害時の機能確保、費用対効果、施設計画との整合を踏まえ、基本計画の導入機能の検討において参考とします。

No.	意見の概要	市の考え方
12	④ 観光と移住・ワーケーションを呼び込む「デジタル窓口」 ・概要：杵築駅は城下町や空港へのアクセス拠点でもあるため、駅周辺にコワーキングスペースや観光案内AIコンシェルジュを導入する。 ・狙い：地元住民の交流拠点（コミュニティカフェ等）と併設することで、関係人口の創出や移住相談のワンストップ対応を可能にする。	本基本構想では、駅前交流・交通結節ゾーンに観光案内、商業・観光、待合・休憩等の機能を導入候補として示し、市民と来訪者が交わる交流拠点の形成を方針としています。コワーキングスペース、観光案内のデジタル化、コミュニティカフェ等については、利用ニーズ、運営主体、既存施設との連携及び事業性を踏まえ、基本計画の導入機能の検討において参考とします。
13	⑤ コンパノロジー（コンパクト×テクノロジー）による行政手続きの自動化 ・概要：複合庁舎内での行政手続きにAI窓口案内や自動書類作成、オンライン申請サポートを全面的に導入。 ・狙い：職員の仕事負担を大幅に減らし、その分を保健師や社会福祉士などの「人に寄り添う対面サービス」へ充てることができる。	駅周辺に導入する行政機能（出先機能・窓口機能等）の検討に際して、誰もが利用しやすい案内・申請支援の充実は参考となる意見です。一方、AI窓口案内、自動書類作成及びオンライン申請の全庁的な導入は、行政DX・情報セキュリティに関わる全庁的な取組であるため、本意見は関係課に共有し、関連施策の検討にあたって参考とします。
14	大田山香地区のための対策について 1. 「移動スーパー・移動市役所」のAI運行強化 ・山香・大田地区へ「出向く」サービスをデジタルと融合させてアップデートする発想。 ・AIルート最適化の移動行政・医療車：各地区の公民館や集会所に定期訪問する「移動窓口車」や「オンライン診療巡回車」を走らせる。行政手続きや簡単な健康相談・バイタルチェックが地元で完結。（現在、医療MARSや出前講座などを山香病院が行っていますが、もう少し仕組みを変更するなどしてもよいかも） ・移動販売との連携：AIが各世帯のニーズや予約状況を分析し、日用品の買い物支援と行政サービスを同時に届ける仕組みを作る。	本基本構想は、JR杵築駅を中心とした周辺一帯を対象区域としており、大田・山香地区における移動行政・医療サービスや買い物支援については、別途関連する施策の中で検討していく必要があります。本意見は関係課に共有し、各地区における施策・事業の検討にあたって参考とします。
15	2. 駅・新拠点への「ドア・トゥ・ドア」交通インフラの補償 ・集約先（駅周辺）への移動コストや手間を劇的に減らす仕組みをセットで整備。 ・AIデマンドタクシーの優先配車・助成：山香・大田地区の自宅前から、駅周辺の新複合施設（病院・市役所）まで直行できる予約型乗合タクシーを整備。 ・既存バス路線のハブ化：大田・山香の各拠点から新施設へ乗り換えなしでアクセスできる直行送迎ルートの確保や、利用料金の優遇措置（高齢者割引の拡充など）をセットで提案。	本基本構想では、駅を広域交通の玄関口として位置付け、二次交通ネットワークの強化を方針としています。一方、大田・山香地区から駅周辺への直行交通、運賃助成等は、対象区域を超える地域公共交通施策に関する事項です。本意見は関係課に共有し、地域公共交通計画等に基づく交通サービスの検討にあたって参考とします。
16	3. 山香病院・庁舎の「跡地・既存施設」の地域還元 ・機能が集約・縮小された後の既存施設や拠点を、地域住民のための空間に再整備。 ・サテライト型「健康・暮らしの相談所」の維持：全ての機能を移転するのではなく、山香・大田地区にはリハビリデイサービスや日常的な健康相談ができるサテライト拠点を残す。また診療所としての機能やグリーンケアを残すなど。 ・地域コミュニティ・多世代交流拠点化：空きスペースを活用し、高齢者の集いの場（サロン）や、子育て支援、地場産品の販売・配送拠点（産直ハブ）など、地元住民が普段使いできる施設ハリノバージョン。	本基本構想はJR杵築駅周辺を対象としており、山香病院・庁舎等の既存施設や跡地の活用については関連する取り組みであるファシリティマネジメントで検討していきます。本意見は関係課に共有し、施設のあり方や地域活性化施策の検討にあたって参考とします。
17	4. 救急医療・防災機能のローカル強化 ・医療・行政機能が駅周辺へ移るからこそ、地元側の初期対応能力（防災・救急）を高める投資を行う。 ・オンライン診療×緊急搬送の連携：山香・大田地区の診療所や救急車内に高精度の通信環境を整え、移動中から駅周辺の集約病院の専門医とリアルタイムで連携できる「スマート救急」を導入。 ・防災備蓄・非常用電源の拠点化：山香・大田地区の既存施設を災害時の「一次避難・防災拠点」として機能強化し、孤立対策を講じる。	本基本構想では、JR杵築駅周辺における災害リスクへの配慮や防災機能の導入可能性を示しており、大田・山香地区における救急医療体制、通信環境、避難・防災拠点の強化については、別途関連する取組の中で検討していく必要があります。本意見は関係課・関係機関に共有し、関連施策の検討にあたって参考とします。
18	私は医療従事者のため、杵築市が保健医療福祉に強い街作りを進めてほしいです。そのため、AIに病院と市役所の集約を提案し、その他をAIに提案してもらいました。今後は、AIも街作りにも力を発揮してくれると考えています。杵築市に「保健医療福祉とAIに特化した街」なってもらいたいと考えています。高齢者が多く、普段の買い物や通院なども難しい場合があります。駅周辺の環境整備だけでなく、大田山香地区にも目を向ける政策立案と実施をお願い致します。	本基本構想では、駅周辺における医療・福祉機能の導入可能性や、AI等の次世代技術を活用した交通サービスへの対応を示しています。一方、保健医療福祉とAIに特化した全庁的なまちづくり及び大田・山香地区の施策は本構想の対象を超えるため、本意見は関係課に共有し、関連施策の検討にあたって参考とします。
19	いよいよ杵築駅周辺の開発計画、嬉し限りです。暘谷の駅前がベッドタウン化で立派になり過ぎて、いつか特急停車駅の立場を、取られないか？とハラハラしておりました。まず、最初の開発計画としては、賛同致します。頑張って下さい！	本基本構想の趣旨に対する賛同意見として受け止め、JR杵築駅周辺における交通結節機能、交流・にぎわい機能等の向上に取り組みます。
20	2次的に駅の上を通る空港リムジンバスを活用して下さい。杵築I.Cでは歩けず遠すぎです。阿蘇社の南東にバス停留所用地確保し、エレベーター・エスカレーターで駅直結にすれば完璧です。駅周辺が便利になれば、JR九州も開発にのってくるかも？別府・大分へ行くには車よりソニックの電車が、ワープ状態なのが好きで利用してます。	本基本構想では、鉄道・バス・タクシー等の円滑な乗継ぎや、広域観光地を結ぶ二次交通ネットワークの強化を方針として位置付けています。空港リムジンバスの活用、停留所の配置及び駅との接続については、バス事業者、道路管理者、鉄道事業者等との協議を要するため、需要、用地、整備費用及び安全性を踏まえ、基本計画の検討における参考とします。
21	ワークショップの内容が全く反映されていない！ただこの基本構想は先に出来ていたのにそれを教えず、ただ、そういう会を開催していたという実績づくりの会でしか無かった！ 正直、杵築市には何も期待出来ません！	市民ワークショップで得られた意見については、各班に共通する意見・ニーズとして整理し、商業・生活利便機能の充実、公園・緑地・水辺の整備、観光客・来訪者への対応及び駐車場の確保を、基本構想に反映しています。 今後の基本計画の検討段階においても、市民参加の機会を設けます。
22	トライアル、ラ・ムー コスモス コンビニ 映画館などなど。この機会を逃すと駅周辺は一生変わらないような気がします。色々な問題があるでしょうが・・・	本基本構想では、駅前交流・交通結節ゾーンにおける商業店舗等の導入候補を示しています。具体的な店舗・業態の誘致については、需要、事業採算性及び民間事業者の意向を踏まえ、基本計画の検討において参考とします。

No.	意見の概要	市の考え方
23	市民以外にも活用する人の増加（もちろん有料サービス提供）と企業連携で財政負担軽減も視野に入れ、交通インフラにプラスの付加価値をつけてほしい。 ・輪行拠点（自転車メーカーやパーツ有名店）・鉄道貨物輸送拠点（物流会社）・泊まれる駅舎（ホテル事業会社）・駅弁（デパート催事） ・コスプレ撮影拠点（撮影スタジオ+和楽庵支店 安全には考慮してホーム等を朝・夜の時間に有料貸切など） ・つぶらなかぼすの出る蛇口（JA） ・道の駅を駅内設置（先日、某新幹線駅のそばの人気ローカルスーパーで購入→すぐ発送がとても便利だった）	民間事業者との連携による付加価値創出に関するご提案については、事業者の意向等を踏まえ、財政負担の軽減にも資する取組として、基本計画の検討において参考とします。
24	6月の記事よりハーモニールランドリゾート化計画は、段階的に開発を進め、開園45周年を迎える2036年ごろの完成を目指す10年後に予定している。とのことで、あと10年までに杵築駅周辺整備がどこまでできるか？かなりタイトなスケジュールになりそうな感じがします。3年ごとのハード面・ソフト面の整備達成プランが早急に必要な事案だと思います。	ハード・ソフト面の整備プランに必要な要素を、今後策定を予定している基本計画の中で検討していきます。
25	1、リーフレット（地域の魅力歴史版）温故知新 地元の魅力を見直す部分では、駅周辺の方々も理解できるような歴史の流れを紹介するリーフレットを先に作って近隣に住んでいる方々の意識を高めるとりくみも必要ではないでしょうか 例えば、お宮の「100段階」は223年前の享和3(1803)年に造築され現在に至るとか・・	地域固有の歴史・個性を伝える情報発信に関する意見として、基本計画における情報発信策の検討にあたって参考とします。
26	2、イベント広場の整備 駅裏の広場（八坂コミュニティ）の東側に公園(各種イベントも開催できるような)、マルシェやら展示会など、	本基本構想では、市民・来訪者が利用できるオープンスペースやイベント空間の整備を方針としています。具体的な位置・規模については、基本計画の検討において参考とします。
27	3、展望台 鉄道ファンの中では有名な90° 曲がる線路が一望できる展望台を阿蘇宮(100段階の上部)に作ると観光名所(ポケットパーク的な)になると考えます。	阿蘇社周辺は鉄道風景の撮影スポットとしても知られる地域資源です。展望台等の整備については、用地の管理状況、安全性及び整備効果を踏まえ、基本計画の検討において参考とします。
28	4、移動手段（タクシー・バス便少ない）やアクセス (1)ライドシェア(ライドタクシー)など必要な時期に合わせて稼働できるようにする (2)駅の裏にインター出口(自動車専用道路の)があったほうがいいのでは（渋滞の緩和にもなる） (3)イベント的なこととして、「空飛ぶタクシー」の臨時運行など遠方からの来園者にニーズありそう (4)先に駅裏の臨時駐車場近辺の緑化整備も有効かもしれませんが（予算・納期的にも）	本基本構想では、二次交通ネットワークの強化及び次世代交通サービスへの対応を見据えた環境づくりを方針として示しています。ライドシェアの導入及び空飛ぶタクシーの臨時運行や駅裏臨時駐車場周辺の緑化整備については、関係法令、運行主体及び事業者の動向を踏まえ、基本計画の検討において参考とします。駅裏へのインターチェンジ出口の設置は、道路管理者による広域的な道路計画に関わる事項であり本構想の対象を超えるため、道路管理者・関係課に共有し、関連計画の検討にあたって参考とします。
29	5、大分県の人口減少率が大きいと最近の記事(統計)でみましたが、杵築市の人口・出生数の推移はいかがでしょうか？、10年後20年後の世代交代を踏まえて駅周辺の整備を計画するのは難しいことだと思いますが将来のために今できることを進めることに協力します。	将来の人口動態を踏まえた計画立案の必要性に関する意見として受け止めます。基本計画の検討にあたっては、将来の人口動態や需要の変化を踏まえ、施設規模・機能配置等を精査します。
30	少子高齢化、人口減少が急速に進行していること。持続可能なまちづくりの視点が必要であること。 ”わくわく”を基本理念に出されていることから、子どもや若い世代が楽しそうな、行ってみたいなど感じるようなスペースとして「ストリートバスケットコート」の設置を希望しているので、若者たちを中心に人気の出ている、気軽に1人からでも2人でも身体を動かし楽しめるストリートバスケットコートの設置を是非取り入れていただけるよう提案させていただきます。不登校・ひきこもりによる運動不足や孤独を経験した子どもからの意見でもあり、体育館とは違い、予約や鍵の返却・料金もなく気が向いた時に、一歩外に出るきっかけとしても大切だと実感してのことです。市外に出ても、ふるさとにつきに帰った時に、友だちと遊べるバスケットがふるさとの魅力につながることを心より願います。安全面、維持管理面で市民としてできる協力はしたいと思います。よろしくお願いします！	本基本構想では、全ての世代が集い交流できるコミュニティハブ機能の形成及び「わくわく」を実感できる拠点づくりを方針として示しています。ストリートバスケットコート等、子ども・若者が気軽に体を動かし交流できる場の整備については、設置場所、安全対策及び維持管理体制を踏まえ、基本計画の検討において参考とします。
31	・かつて20年間、数少ない徒歩での駅利用者でした。そのとき駅～鉄橋の間が苦痛でした。車は通るし、閉じた店の風景が侘しくて。あの通りにずらりと季節の花々があればと思いますが、個人住宅なので、そこまでは望めないでしょう。 ・駅前広場は、ぜひ緑の多い市民の憩える空間を希望します。	本基本構想では、市民と来訪者が気軽に立ち寄り憩えるオープンスペースの形成を方針として示しています。駅前広場における緑を多く取り入れた空間の整備については、基本計画の検討において参考とします。また、駅から鉄橋にかけての沿道景観については、民有地を含む区間であることから、所有者の理解と協力を得ながら、関係課と連携し、基本計画における景観形成策の検討にあたって参考とします。
32	・整った案ですが、受けた印象は弱いです。全体的に率直に言って、いつかどこかで見た風景という印象が拭えませんでした。コンビニ・カフェ等によって今風の薄っぺらい景色になるような危惧を抱きます。電車の待ち時間を埋めるのに、美味しい日本茶を飲める店や、古本屋は欲しいですが。	本基本構想では、商業店舗（物産館、カフェ等）の導入候補を示しており、基本計画の検討にあたっては、画一的な景観とならないよう配慮します。また、日本茶店・古本屋等、杵築らしい落ち着いた滞在機能の導入については、事業性及び運営主体を踏まえ、基本計画における導入機能・景観形成の検討において参考とします。

No.	意見の概要	市の考え方
33	・この案には歴史の視点が欠けているような気がします。駅に着くと「おかえりの唄」が流れ、お帰りの町を標榜しているのですから、懐かしさを醸し出す雰囲気欲しいと思います。その場合、古さをつくるわけにはいきませんので、歴史に手助けしてもらおうと思います。 かつて市民の足として軽便があったことも今はわかりませんし、生桑は非戦の提督・堀悌吉の生家もあったはずです。重光邸も遠くありません。八坂川を渡った一角は幕府の天領だったと聞きます。それらのパネルを立てたり表示することで、ぐっと風景の深みが増すのではないのでしょうか。	本基本構想では、城下町の歴史と調和し、来訪者が地域固有の個性を体感できる景観形成を方針としています。歴史等の地域資源を活かした案内パネル等の設置については、関係課・関係団体と連携し、基本計画における景観形成及び情報発信策の検討にあたって参考とします。
34	・また、旅人としての視点で見ますと、電車の待ち時間に駅の周りを歩いてみたいものです。そのとき、陽谷駅のように山側にもおることができれば、それこそ「わくわく」すると思います。 ・とにかく、まず駅を出てすぐ目に入るところに、たとえば「杵築探検」のような看板を立て、「おかえり」そして「ようこそ」「さあ、どうぞ!」という雰囲気をつくる必要があると感じました。	本基本構想では、駅舎南北を結ぶ連絡機能の強化や情報案内機能の導入を示しています。いただいたご意見は基本計画における景観形成及び情報発信策の検討にあたって参考とします。
35	国東半島の繁栄のためには、単線よりも複線化へ。 また東九州新幹線の設置が欠かせません。複線化にしても新幹線にしても、線路や駅の敷地の拡張が必要となります。 元みかん工場跡地は広いですがこの拡張工事が予定されるとなれば、みかん工場跡地にかかってしまうことが予測されます。 将来を計画した上で、長い目で見た上での検討が必要と思います。	鉄道の複線化及び新幹線整備は、国及び鉄道事業者等による広域的な鉄道整備計画に関わる事項であり、現時点では本基本構想において具体的な方向性を示しすることは難しい内容です。
36	J R杵築駅周辺のにぎわい活性化に向けて、駅を利用する若者や通学で利用している高校生が電車の待ち時間を過ごせるような環境を希望します。 1) 例えば、市民フォーラムにて現役高校生の意見や希望から「屋台」や「ミニマルシェ的なオープンスペース」で飲食できる場所や、友だちと休憩や会話を楽しんで過ごせるスペースを要望します。 2) また、幼児や児童が遊ぶ公園はありますが、若者が気軽に遊べる場所が少なく、特に地元の高校生が電車の待ち時間等に仲間と気軽に遊べる場所として、「ストリートバスケットコート」が大分駅周辺や三重町駅周辺に整備されて利用されており、週末は予約制でスポーツイベントを開催したり、市民が交流できる場所を要望いたします。 (「ミニサッカー」も考えましたが強く蹴る特性上、怪我のリスクが少ない「ストリートバスケ」がベストと考えました)	本基本構想では、駅前交流・交通結節ゾーンにおける待合・休憩空間及び全ての世代が集えるコミュニティハブ機能の形成を方針として示しています。高校生等が待ち時間を過ごせる環境整備については、他自治体の整備事例も踏まえ、基本計画の検討において参考とします。